

# 「学力低下」は本当か？

## ■ 基礎学力(到達度)

平均点・・・数学5位, 理科6位

経年変化・・・数学: 中2は1995年より-11点(有意), 小4はn.s.

理科: 中2はn.s., 小4は1995年より-7点(有意)

学力格差・・・国際的に見ると, 格差は小さい

## ■ 意欲・関心・態度

「算数の勉強が楽しい」・・・中2, 小4とも下から2位

「理科の勉強が楽しい」・・・中2, 小4とも下から3位

「勉強への積極性(中2)」・・・数学: 下から2位, 理科: 最下位

## ■ 放課後の時間の使い方(中2)

「宿題をする」・・・1.0h(最下位。AVR=1.7)

「テレビ・ビデオを見る」・・・2.7h(1位。AVR=1.9)

(国際教育到達度評価学会(IEA)の数学・理科の調査(2003))

**学力低下というより, 学ぶことへの意欲・関心がない**

# フタコブラクダと学力保障

## ■ 学力低下という現象

学校や教委が種々の取組

宿題、学習規律、教え方の工夫etc

## ■ 学力低下の実態は？

学力の“フタコブラクダ”化

低い学習意欲(PISA2003では、世界のほぼ最底辺)

\* 心理学的にみれば・・・

学習は自己実現欲求や影響力欲求レベル

→他の欲求が満たされたのちに活性化する欲求

**学力への欲求を刺激するには  
前段階の欲求(安心安全・交流・承認)充足が不可欠**

# ソーシャル・ボンドと不登校

「なぜ逸脱するのか」ではなく「なぜ逸脱しないですんでいるのか」  
という観点こそ重要ではないか？

子どもを社会的集団につなぎとめておく  
「**関係の束**」(ソーシャル・ボンド)

これが「切れた」とき、不登校や非行といった「問題」が出現？

問題に着目するより、子どもが  
「学校に通うことの意味」をソ  
シャル・ボンドの観点から検討  
するほうが重要では？

「問題」の起きる子どもと、そう  
でない子との間に、性格等の  
面での「大きなちがい」はない  
のでは？

「**関係の束**」(ソーシャル・ボンド)を築くこと、  
築ける人間への成長を図ることが不登校の予防

# 指導・支援に関する基本仮説

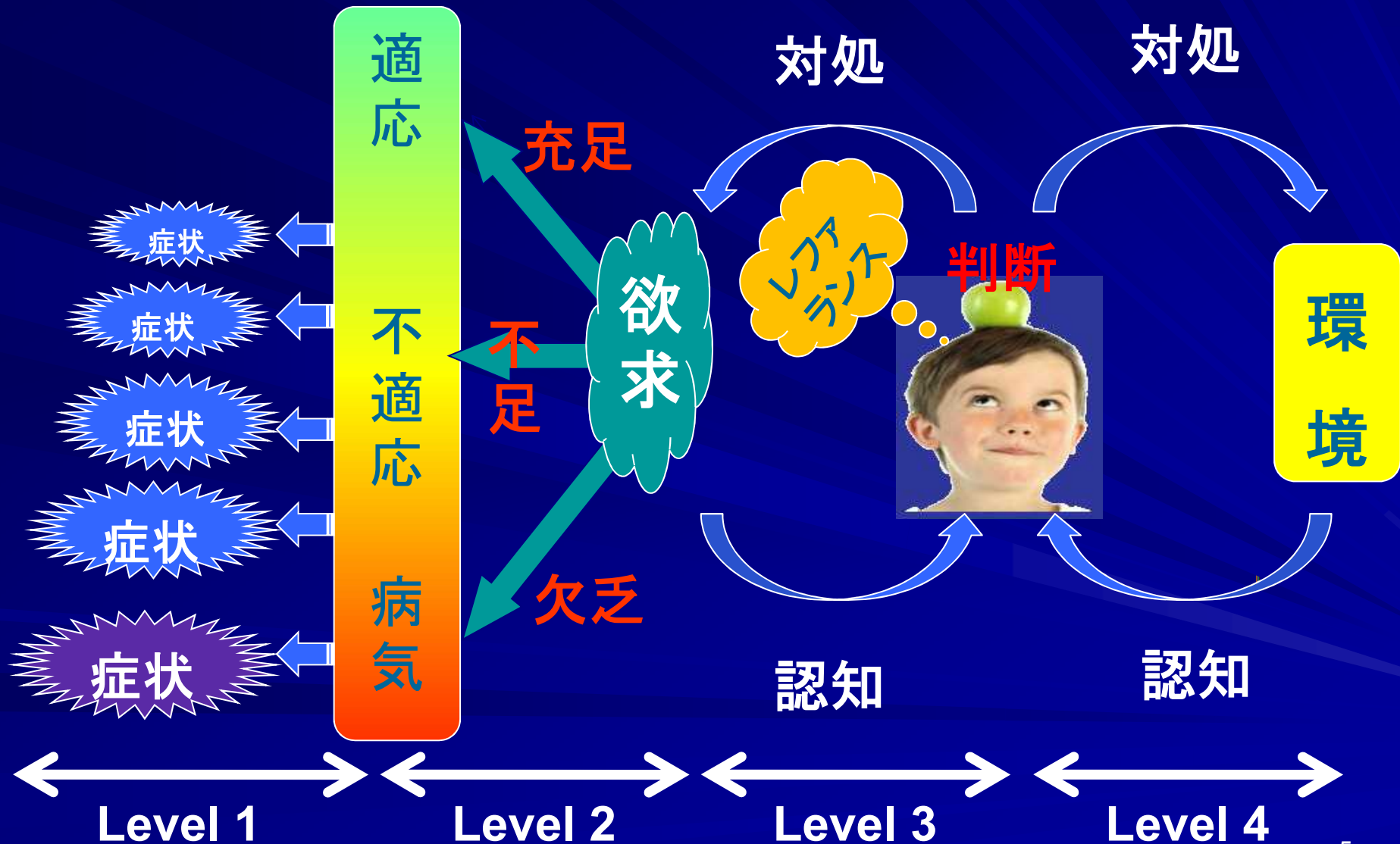
ソーシャルボンドは社会集団からの脱落の予防要因  
(Hirschi, 1969)

全児童・生徒に対して  
良質のコミュニケーションを大量に提供するプログラムを実践

- 1) 児童・生徒のコミュニケーション能力の改善
- 2) ソーシャルボンドの構築

- 1) 児童生徒の学校適応感は改善
- 2) いじめ・不登校は減少

# 適応のメカニズムと生徒指導



# 問題はなぜ持続するかー自動販売機の理論ー



# 荒れた状況解決へのヒント 1

- ①“指導か，支援か”の二者択一ではない。指導も，支援も。
- ②十分な支援をしていない教師の指導は入らない。
- ③指導が必要な状況にある生徒は，何らかの生きにくさ，しんどさ，スキル不足等を抱えている。その部分が何かを考え，支援する。
- ④問題行為については厳正に指導する。そのとき本人が，「指導されてもやむを得ない」と納得するところまで粘り強く関わる。  
(そのためには，日常的な支援が不可欠)
- ⑤保護者の信頼感獲得が重要。

# 荒れた状況にある子どもへの 指導・支援のヒント

## <背景の理解>

- ・発達的問題
  - \* 状況・他者の感情を読めない
  - \* 衝動性をコントロールできない → 否定的関わり
- ・養育上の問題
  - \* 愛着障害 → 善意・愛情を受け取れない
  - \* 行為障害 → 罪悪感を感じられない
- ・欲求・・・所属したい, 愛されたい, 認められたい

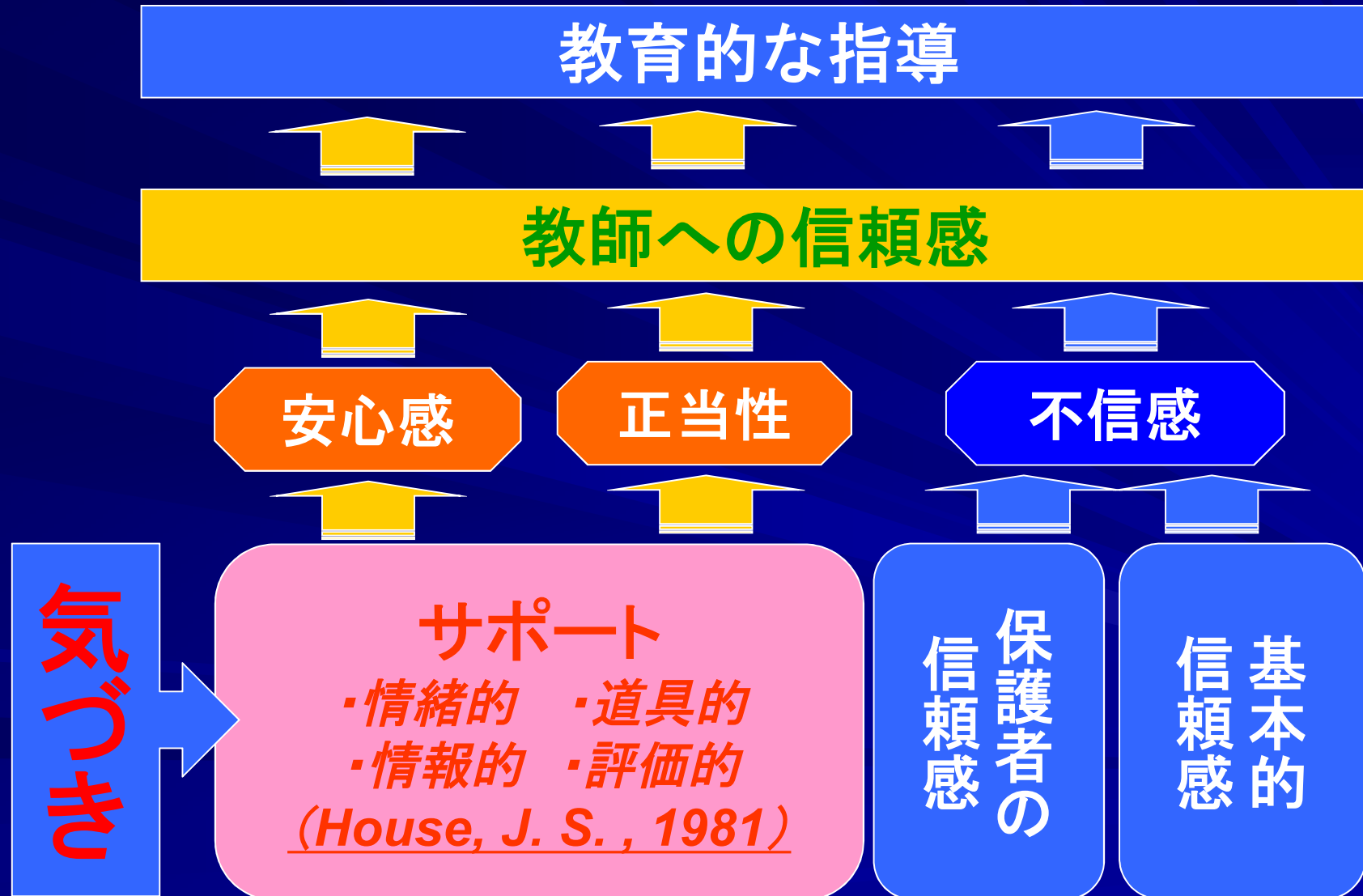
## <対応の基本>

- ①個別指導でていねいに
- ②集団指導で関わりすぎない
- ③挑発されない
- ④追いつめない
- ⑤あきらめない

心や対人関係の成長レベルは何歳？



# 指導と支援の関係



# マルチレベル アプローチ

すべての生徒  
(一次支援)

一部の生徒  
(二次支援)

特定の生徒  
(三次支援)

品格教育

協同学習

グループ活動

Social and  
Emotional  
Learning

ピア・サポート

小中連携  
欠席の管理  
による早期介入

SCを活用した  
チーム支援

# 実践プログラム (一次・二次・三次アプローチ)

専門性

チーム性

アドバンス・スキル

ベーシック・スキル

教師  
集団

役割の分担

理念・目標・方針の  
共有

情緒的つながり

保護者

地域

関係者

教育委員会

実践プログラム支援機能